



## 山形オペラ協会の活動紹介

山形オペラ協会会長 藤野 祐一

山形オペラ協会は、昭和53年（1978）に結成されました（結成時の名称は「山形声楽研究会」）。当時、音楽関係の大学・学部を卒業後、引き続き声楽の勉強を希望する者たちが山形市近郊に増えてきており、発表の場を求めている状況でした。それを踏まえて、仲間同士で研究や演奏ができる場を作ろうと活動を開始しました。そして、将来は、オペラ公演を目指すことも視野に入れていました。その活動の中心となり、運営・指導に当たって下さったのは、山形大学の松澤俊子教授、高橋幹彦教授（当時）でした。結成から32年後の平成22年（2010）4月、活動の中心がオペラになったことを踏まえて、名称を「山形声楽研究会」から「山形オペラ協会」へ改めました。現在は34名の会員が在籍しております。発足当時の主な活動であった「声楽の夕べ」は、会員個人の研究成果を発表するための演奏会開催を目指したものでした。その内容は、現在でも「ガラ・コンサート」に受け継がれています。

また「県人・県民オペラ」は、スタッフ及びキャストを県出身者、県内在住者に限定した事業で、「フィガロの結婚」「魔笛」「夕鶴」「紅の石」「阿古耶姫」「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」などのオペラを上演し、高い評価を頂きました。この事業は、平成9年（1997）の第8回をもって終了しましたが、その中で培った人材やノウハウは、平成13年（2001）から開始された、「山形県生涯学習文化財団芸術文化鑑賞普及事業」として現在まで継続しているオペラ公演に受け継がれています。この企画は、山形交響楽団と山形オペラ協会の2団体でオペラ公演を実施するもので、県内の市町村の比較的小規模なホールでオペラを公演するために、「オーケストラの位置は舞台上も含め臨機応変に対応する」（公演時間は2時間程度に収める）などの工夫が施されています。これまで、モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」などの演目を中心に、上演しております。



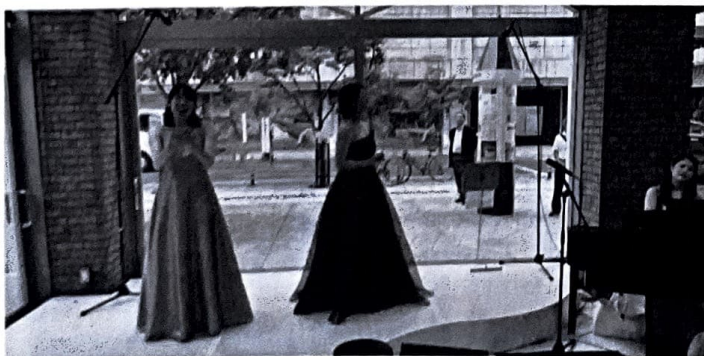
2014年11月「フィガロの結婚」大江町東地区公民館



2019年8月「カルメン」天童市市民文化会館



2023年7月「泣いた赤鬼」遊学館ホール



2023年9月「オペラ・プロムナード」富岡本店1階ステージM

山形オペラ協会が、近年力を入れて取り組んでいる事業に、『オペラ・プロムナード』があります。これは、平成22年（2010）に、山形オペラ協会の存在を広く社会に知っていただき、オペラに親しみを持ってもらうための企画として、新たに立ち上げたものです。年2回程度、山形市の富岡本店様のご協力を得て、富岡本店1階のステージMを会場に、一般市民の皆様を対象として無料で開催しております。オペラのアンサンブルに少しでも親しみを持っていただくため、日本歌曲やカンツォーネ、合唱曲なども演奏しております。

昨年7月に自主公演として上演した「泣いた赤鬼」は、山形県の誇る童話作家浜田広介の童話を原作としたオペラで、当協会として4回目を数えておりますが、お陰様で公演は大好評でした。山形オペラ協会として、このような子供から大人まで幅広い年代の方が楽しめるオペラ演目などをレパートリーとして、更に地域に密着した活動を目指していく所存です。

これからもご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。